

せんてんせいはいしゃし

先天性内斜視

―――生まれたときから目が内によっている―――

【先天性内斜視とは．．．】

内斜視とは、正面をみたときに片方の目の視線が内側を向いているものをいいます。先天性内斜視とは生後6ヶ月までにおこった内斜視をいいます。

【原因は？】

眼球には6つの筋肉がついていて、これらの筋肉の伸び縮みによって眼球はいろいろな方向に動きます。この内の眼球の内側（内直筋）と外側（外直筋）についている眼筋が水平方向の動きに関係しますが、これらの眼筋の力にアンバランスがあるために斜視になっています。

【治療】

1. 両方の視線をまっすぐにむけてやる(眼位を正位にすること)
2. 両眼視をするようにしてやること、の二つになります。

正位にするのは、手術によって行います。しかし、手術をして両眼がまっすぐむくようになって、両眼視をするようになるとは限りません。そのためには、また、別の訓練が必要になります。手術は1才過ぎに、なるべく早くするのがよいと考えられます。

【経過】

生まれてきて以来、完全には1度も両方の目を同時に使ったことがなく、両眼視をする力を全くもっていませんから、正位になっても完全な両眼視をするようになることはまずないというのが大勢の意見のようです。そのため、一回の手術だけでうまくいくことは少なく、2回、3回と手術を受けることが多いようです。

日帰り白内障手術施設

眼科 中橋クリニック



7 5 2 - 8 8 1 8